

音 楽（一 般）

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称		教科書名
17	教 出	中学音楽 音楽のおくりもの
27	教 芸	中学生の音楽

2 教科書の調査研究における観点、視点及び方法

観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	① 題材の目標の示し方	目標の示し方と目標に関わるポイントの示し方及びその具体例
		② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫	我が国の伝統的な歌唱及び歌唱共通教材の扱い
		③ 創作の基礎・基本の定着を図るための工夫	旋律づくりの扱いとその具体例, 構成を工夫した創作の扱いとその具体例
		④ 様々な音楽文化についての理解を深める工夫	我が国の音楽文化・諸外国の音楽文化の扱い
(イ)	学習方法の工夫	⑤ 興味・関心を高めるための工夫	多様な音楽活動のための資料及び巻頭と巻末の扱い
		⑥ 表現と鑑賞の関連	表現と鑑賞の関連の扱い
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑦ 教材の分量及び配列	教材の配列とその具体例及び目次に示された領域ごとの教材数
		⑧ 発展的な学習に関する内容の記述	発展的な学習内容の記述とその具体例
(エ)	内容の表現・表記	⑨ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用	キャラクターやマーク等の活用及び写真の活用
(オ)	言語活動の充実	⑩ 鑑賞領域における言語活動の工夫	鑑賞の視点の提示の仕方及びワークシートの工夫とその具体例

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	①題材の目標の示し方
方法	目標の示し方と目標に関わるポイントの示し方及びその具体例

	目標の示し方	目標に関わるポイントの示し方	第1学年 鑑賞教材「春～第1楽章～」における具体例	
			目標の示し方の例	目標に関わるポイントの示し方の例
教 出	○ 見開き左ページ上に縦書きで、題材を記述することで、目標を示している。	○ 題材の下に縦書きで活動のポイントを2つずつ示している。	○ 「情景を表した音楽」	○ 使われている楽器の音色(おんしょく)、旋律と強弱の関係などを聴き取ろう。 ○ ソネットと音楽とのかかわりを確かめ、曲想を感じ取って鑑賞しよう。
		○ [共通事項] に示されている用語や記号を見開き右ページ上に、掲載している。		[共通事項] Allegro (アレグロ)
教 芸	○ 見開き左ページ上に横書きで、学習の目標を示している。	○ 学習活動について「～しましょう。」等の形態で示している。	○ 「曲の構成に気をつけながら、曲想の変化を感じ取って聴こう。」	○ ソネット(14行からなる詩)を手がかりに、各部分の曲想を感じ取って情景を想像してみましょう。 ○ Aの□□□□と同一ような旋律がB C D E それぞれの終わりの部分に現れることで、構成がはっきりすることを感じ取りましょう。
		○ [共通事項] に示されている音楽を形づくっている要素をマークで示し、目次に掲載している。		[共通事項] 「リズム」「旋律」「強弱」「形式、構成」「音色」

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	②歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫
方法	我が国の伝統的な歌唱及び歌唱共通教材の扱い

	学年	我が国の伝統的な歌唱の扱い	歌唱共通教材	
			扱い	教材名
教出	1	○ 「郷土の民謡の魅力」において、「ソーラン節」を取り上げ、活動のポイントに「声の出し方やのびし方などの特徴を感じ取って歌おう。」「拍の表れ方を確かめ、歌い合わせ方を工夫してみよう。」と示している。「民謡の特徴」として、「囃しことば」「拍節的リズム」「非拍節的リズム」「音頭一同形式」「コブシ」「産字」が提示されている。	○ 各学年から1曲（「夏の思い出」「浜辺の歌」「花」）を取り上げ、見開き2ページに歌詞と写真、「作者について」を掲載し、次のページから楽譜を載せている。 ○ 活動のポイント、楽譜、歌詞、作者の写真と紹介文が記載されている。	夏の思い出 赤とんぼ
	2・3	○ 「能の音楽を体験しよう」において、「能『羽衣』キリから（大ノリ）」を取り上げている。「能の謡は西洋の音階とは異なります。微妙な音程が固有の味わいを生み出します。模範演奏を聴いて、まねをしてみましょう。」と記載している。（下の教科書）	○ 「A Message for You」や曲のゆかりの地の写真等が掲載されている。	浜辺の歌 花の街 早春賦 （2・3上） 花 荒城の月 （2・3下）
教芸	1	○ 「My Voice!②」において、『ソーラン節』を取り上げ、学習活動を示す文として「『ソーラン節』のCDを聴いて声の特徴を感じ取り、それに近い声の出し方や歌い方を工夫してみよう。」と記述している。「日本の民謡」の鑑賞において、「民謡のいろいろなタイプ」「民謡のリズムの特徴」「コブシ」が提示されている。	○ 7曲とも共通のタイトル「心の歌」として取り上げられ、目次に「共通教材」の記載がある。 ○ 学習の目標、楽譜、歌詞、作者の写真と紹介文が記載されている。 ○ 「作詞者の言葉」「作曲者の言葉」や曲に関する写真等が載せられている。	浜辺の歌 赤とんぼ
	2・3	○ 「日本の伝統音楽に親しもう。－歌舞伎と文楽の音楽－」において、「勸進帳」を取り上げている。活動目標に「長唄『勸進帳』にチャレンジしよう!」、と示し、「唄うときの手順」「唄うときに気をつけること」が記載されている。（上の教科書）		夏の思い出 荒城の月 （2・3上） 花 花の街 早春賦 （2・3下）

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	③創作の基礎・基本の定着を図るための工夫
方法	旋律づくりの扱いとその具体例

	旋律づくりの扱い	学年	題材名	扱いの具体例
教出	○ 「音のスケッチ」として、各学年1つずつの活動が取り上げられている。	1	「日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう」	○ 第1学年「日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう」の学習の流れ ① 活動1「七五調の短い歌詞をつくろう。」 ② 活動2「歌詞を下のマスにあてはめ、言葉の抑揚を線で表してみよう。」 ③ 活動3「言葉の抑揚にそって『ミ』『ソ』『ラ』の音をあてはめてみよう」 ④ チャレンジ「音を『ミ』『ソ』『ラ』『ド』に増やしてつくってみよう。
		2・3上	「動機を生かした旋律をつくろう」	
		2・3下	「箏曲をつくろう」	
教芸	○ 創作「My Melody」として各学年1つずつの活動が取り上げられている。	1	「決まったリズムを使って旋律をつくろう！」	○ 第1学年「決まったリズムを使って旋律をつくろう！」の学習の流れ ① 「主人は冷たい土の中に」のリズムを使ってハ長調の旋律をつくってみましょう。 下の楽譜のあいているところの旋律を考えて完成させましょう。 ② できあがった旋律を下に書いておきましょう。 ③ Challenge! 「同じリズムを使って、自由に好きな旋律をつくってみましょう。」
		2・3上	「ハーモニーをつけてみよう！」	
		2・3下	「詩に旋律をつけてみよう！」	

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	③創作の基礎・基本の定着を図るための工夫
方法	構成を工夫した創作の扱いとその具体例

	構成を工夫した創作の扱い	学年	題材名	扱いの具体例
教出	○ 「音のスケッチ」として各学年1～2の活動が取り上げられている。	1	「楽しいリズム曲をつくろう」 「自然の様子を音楽で表そう」	○ 第2・3学年上「構成を工夫してつくろう」の学習の流れ ① 活動1「1～8までの好きな場所に丸印(○)を一つ書き入れて、その場所を手でたたこう。」 ② 活動2「グループみんなのたたく場所を表にまとめ、パターン①をつくろう。」 ③ 活動3「たたく回数を2回～4回に増やしてパターン②～④をつくろう。」 ④ 活動4 できあがったパターンをつなげて、曲を完成させよう。
		2・3上	「構成を工夫してつくろう」	
		2・3下	「音楽を自由に構成しよう」	
教芸	○ 創作「Let's Create!」として各学年1つずつの活動が取り上げられている。	1	「いろいろな音を見つけて、情景を音楽で表そう。」	○ 第2・3学年下「楽器を使って、2人のやりとりをアンサンブルにしてみよう。」の学習の流れ ① ステップ1「〈音色選び〉対照的な音色の楽器を選んで組み合わせましょう。」 ② ステップ2「〈構成〉①と②の感じを組み合わせ、全体の構成を考えましょう。」 ③ ステップ3「構成に合わせてアンサンブルを組み立てましょう。」
		2・3上	「『曲のしくみ』を参考にして、言葉によるアンサンブル曲をつくろう。」	
		2・3下	「楽器を使って、2人のやりとりをアンサンブルにしてみよう。」	

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	④様々な音楽文化についての理解を深める工夫
方法	我が国の音楽文化・諸外国の音楽文化の扱い

		我が国の音楽文化・諸外国の音楽文化の扱い			
		扱い	学年	目次に掲載された教材名	学習資料名
教 出	<p>○ 目次に「さまざまな音楽文化」と示して、歌唱教材・鑑賞教材を掲載している。</p> <p>○ 第2・3学年の「学習資料」の中で取り扱っている。</p>		1	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の思い出 ・赤とんぼ ・ソーラン節 ・アリラン ・草原情歌 ・日本の民謡と芸能 ・箏曲「六段の調」 ・日本とアジアをつなぐ音 	
			2・3 上	<ul style="list-style-type: none"> ・浜辺の歌 ・花の街 ・早春賦 ・雅楽「越天楽」 ・長唄「勸進帳」から ・日本と世界をつなぐ音 	・ポピュラー音楽図鑑
			2・3 下	<ul style="list-style-type: none"> ・荒城の月 ・子守歌（ねんねこころろこ） ・谷茶前 ・くらしとともにあるさまざまな音楽 ・能「羽衣」キリから ・文楽「義経千本桜」から 	・日本と西洋の音楽の歩み
教 芸	<p>○ 目次の各学年の鑑賞活動において学習の目標を示すとともに、教材名を掲載している。</p> <p>○ 各学年の「資料」の中で取り扱っている。</p>		1	<ul style="list-style-type: none"> ・箏曲「六段の調」 ・尺八曲「巢鶴鈴慕」 ・「日本の民謡」 ・「アジアの諸民族の音楽」 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の楽器 ・アジアの諸民族の音楽
			2・3 上	<ul style="list-style-type: none"> ・勸進帳 ・「新版歌祭文」から“野崎村の段” ・日本の郷土芸能 ・世界の諸民族の音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・パイプオルガン ・オーケストラの演奏 ・歌舞伎－隈取と舞台について－ ・文楽－人形の遣い方と舞台について－
			2・3 下	<ul style="list-style-type: none"> ・平調「越天楽」 ・羽衣 ・世界の諸民族の音楽 ・ポピュラー音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・雅楽－舞楽について－ ・能－面と舞台について－ －能が諸芸能に与えた影響－ ・世界の諸民族の音楽

観点	(イ) 学習方法の工夫
視点	⑤興味・関心を高めるための工夫
方法	多様な音楽活動のための資料及び巻頭と巻末の扱い

	多様な音楽活動のための資料			巻頭	巻末
教 出	○ 「歌のアルバム」として、下の楽曲を掲載している。			○ 「With My Heart 音楽はメッセージ」として、音楽家のメッセージや演奏場面等の写真を掲載している。	○ 各学年とも折り込みページが設けられている。
	学年	曲名	数	音楽家名	内容
	1	「マイ バラード」「BELIEVE」「明日への勇気」「心をこめて」「明日を信じて」「翼をください」「スコットランドのつりがね草」「モルダウの旅」「さようなら」	9	フジコ・ヘミング	○ 「祭りの音楽・芸能」として、博多祇園山笠、長崎くんち、壬生の花田植、阿波おどり、天神祭、花祭、早池峰神楽、秩父夜祭り、三社祭を取り上げている。
	2・3 上	「With You Smile」「春に」「アメージング・グレイス」「カントリー・ロード」「シェリト リンド」「マライカ」「月ぬ美しや」「さくらさくら」「雪の降る街を」「涙そうそう」「かえるがそらを」「ほたるの光」	12	市川團十郎	○ 「オーケストラの楽器」として、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器を取り上げている。
2・3 下	「手紙」「地球の息吹につつまれて」「時計台の鐘」「阿蘇」「椰子の実」「荒城の月」「火の山の子守歌」「小さな雲」「大地讃頌」「仰げば尊し」	10	ジョン・レノン ショパン ベートーヴェン カザルス	○ 「さまざまな舞台芸術」として、オペラ、ミュージカル、バレエ、ジンジュ、文楽、能、歌舞伎を取り上げている。	
教 芸	○ 「心通う合唱」として、下の楽曲を掲載している。			○ 「音楽プリズム」として、音楽と生活の関わりや音楽文化に関する写真を掲載している。	○ 我が国や郷土の伝統音楽、アジアや世界の諸民族の音楽に関する演奏場面の写真を掲載している。
	学年	曲名	数	タイトル	内容
	1	「unlimited (アンリミテッド)」「風と」「てのひら」「星座」「マイ バラード」「青春の1ページ」「Let's Search For Tomorrow」	7	「みんなでつくり上げる音楽」	○ 「アジアの諸民族の音楽」として、ガムランとカッワリーを取り上げている。
	2・3 上	「さくら草」「朝」「心の中にきらめいて」「今日は君のBirthday」「大切なもの」「時の旅人」「蛍の光」	7	「静けさと日本の音」	○ 「歌舞伎－隈取と舞台について－」として、紅隈、藍隈、代赭隈を取り上げている。「文楽－人形の遣い方と舞台について－」として、主遣い、左遣い、足遣いを取り上げている
2・3 下	「青空」「たったひとつ」「いつまでも」「旅立ちの日に」「大地讃頌」「名づけられた葉」「仰げば尊し」	7	「生活の中に生きる音楽」	○ 「世界の諸民族の音楽」として、ツィター、サウンガウ、ピーパー、チャランゴ、シタールを取り上げている。	

観点	(イ) 学習方法の工夫
視点	⑥表現と鑑賞の関連
方法	表現と鑑賞の関連の扱い

第2・3学年上「勸進帳」における表現と鑑賞の関連の扱い							
教 出	扱いの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞から身体的表現活動につなげている。 ○ 歌舞伎の要素に着目させている。 					
	①鑑賞	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">題材名</td> <td>○ 「日本の伝統的な声の特徴」</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の伝統的な声による表現の豊かさを味わおう。 ○ 声の音色（おんしょく）や拍の表れ方，楽器との合わせ方に着目して聴き取ろう。 </td> </tr> </table>	題材名	○ 「日本の伝統的な声の特徴」	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の伝統的な声による表現の豊かさを味わおう。 ○ 声の音色（おんしょく）や拍の表れ方，楽器との合わせ方に着目して聴き取ろう。 	
	題材名	○ 「日本の伝統的な声の特徴」					
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の伝統的な声による表現の豊かさを味わおう。 ○ 声の音色（おんしょく）や拍の表れ方，楽器との合わせ方に着目して聴き取ろう。 						
②表現	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">題材名</td> <td>○ 「歌舞伎を体験しよう」</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>○ 見得を切る，ツケ，囃子。これら三つの歌舞伎の要素に挑戦してみよう。</td> </tr> <tr> <td>活動の流れ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動1 二人一組になって見得とツケを演じてみよう（譜例参照）。上の写真などを参考にして，見得のポーズを工夫してみよう。 ○ 活動2 打楽器と掛け声で，囃子を体験してみよう。 </td> </tr> </table>	題材名	○ 「歌舞伎を体験しよう」	目標	○ 見得を切る，ツケ，囃子。これら三つの歌舞伎の要素に挑戦してみよう。	活動の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動1 二人一組になって見得とツケを演じてみよう（譜例参照）。上の写真などを参考にして，見得のポーズを工夫してみよう。 ○ 活動2 打楽器と掛け声で，囃子を体験してみよう。
題材名	○ 「歌舞伎を体験しよう」						
目標	○ 見得を切る，ツケ，囃子。これら三つの歌舞伎の要素に挑戦してみよう。						
活動の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動1 二人一組になって見得とツケを演じてみよう（譜例参照）。上の写真などを参考にして，見得のポーズを工夫してみよう。 ○ 活動2 打楽器と掛け声で，囃子を体験してみよう。 						
教 芸	扱いの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞から歌唱の活動につなげている。 ○ 声の特徴や旋律の動きに着目させている。 					
	①鑑賞	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">題材名</td> <td>○ 「日本の伝統音楽に親しもう。－歌舞伎と文楽の音楽－」</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 唄方の声の感じや三味線の音色の特徴を感じ取りましょう。 ○ 唄と三味線の，音の重なり方に注意して聴きましょう。 </td> </tr> </table>	題材名	○ 「日本の伝統音楽に親しもう。－歌舞伎と文楽の音楽－」	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 唄方の声の感じや三味線の音色の特徴を感じ取りましょう。 ○ 唄と三味線の，音の重なり方に注意して聴きましょう。 	
	題材名	○ 「日本の伝統音楽に親しもう。－歌舞伎と文楽の音楽－」					
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 唄方の声の感じや三味線の音色の特徴を感じ取りましょう。 ○ 唄と三味線の，音の重なり方に注意して聴きましょう。 						
②表現	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">活動の内容</td> <td>○ 「長唄『勸進帳』にチャレンジしよう！」</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>○ 詞章（歌詞）から，で示した部分を唄ってみましょう。</td> </tr> <tr> <td>活動の流れ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ 唄うときの手順 ① CDを聴いて，声の特徴や旋律の動きを感じ取る。 ② 詞章（歌詞）を声に出して読む。 ③ 模範演奏に合わせて唄う。 </td> </tr> </table>	活動の内容	○ 「長唄『勸進帳』にチャレンジしよう！」	目標	○ 詞章（歌詞）から， で示した部分を唄ってみましょう。	活動の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 唄うときの手順 ① CDを聴いて，声の特徴や旋律の動きを感じ取る。 ② 詞章（歌詞）を声に出して読む。 ③ 模範演奏に合わせて唄う。
活動の内容	○ 「長唄『勸進帳』にチャレンジしよう！」						
目標	○ 詞章（歌詞）から， で示した部分を唄ってみましょう。						
活動の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 唄うときの手順 ① CDを聴いて，声の特徴や旋律の動きを感じ取る。 ② 詞章（歌詞）を声に出して読む。 ③ 模範演奏に合わせて唄う。 						

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑦教材の分量及び配列
方法	教材の配列とその具体例及び目次に示された領域ごとの教材数

	教材の配列	第1学年の具体例		目次に示された領域ごとの教材数			
		配列	数	領域	学年		
					1年	2・3年上	2・3年下
教出	<p>○ 各学年とも、歌唱教材、鑑賞教材、創作、学習資料（楽典を除く）、合唱曲集、国歌「君が代」、楽典の順で配列している。歌唱や創作等のヒントとなる「Let's sing!」「Let's Try!」が掲載されている学年もある。</p> <p>○ 目次で、「音楽の要素をとらえながら」「様々な音楽文化」「歌い合わせ聴き深める喜び」の3つの柱でまとめて配置している。</p>	<p>①歌唱教材 ②鑑賞教材 ③創作 ④学習資料 ⑤歌のアルバム ⑥国歌「君が代」 ⑦楽典 （「Let's sing!」「Let's Try!」は除く）</p>	12 6 3 2 9	歌唱	12	9	9
				鑑賞	6	9	6
				創作	3	2	2
教芸	<p>○ 各学年とも、歌唱教材及び創作、鑑賞教材、合唱曲集、資料（口絵を除く）、国歌「君が代」の順で配列している。歌唱や創作等のヒントとなる「ここが分かれば Grade up!」「確認しよう」「発声」「指揮」が掲載されている学年もある。</p> <p>○ 歌唱と創作の活動を関連させながら配置している。</p>	<p>①歌唱教材 ②創作 ③歌唱教材 ④創作 ⑤鑑賞教材 ⑥全校合唱 ⑦心通う合唱 ⑧音楽の約束 ⑨国歌「君が代」（「ここが分かれば Grade up!」「確認しよう」「発声」「指揮」は除く）</p>	2 1 7 1 6 1 7	歌唱	10	11	8
				鑑賞	7	7	10
				創作	2	2	2

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑧発展的な学習に関する内容の記述
方法	発展的な学習内容の記述とその具体例

	発展的な学習内容の記述	具体例	
		学 年	各学年における具体例
教 出	○ 各学年とも、目次に「 発展 」…中学校音楽で定められた学習内容のほかに、さらに学習したいときには取り組んでみましょう。」と示すとともに、該当ページを1ページ設け、イラストと文章で記述している。	1	発展 『音』ってなあに？」
		2・3上	発展 「音の三要素PART-1」
		2・3下	発展 「音の三要素PART-2」
教 芸	○ 各学年とも、目次に、「発展的学習（学習指導要領の示す範囲を超えた学習内容で、必要に応じて学習するものです。）」と示すとともに、見開き2ページの口絵に、写真と文章で記述している。	1	『自分らしさ』の表現」
		2・3上	「声、そしてオペラの魅力」
		2・3下	「音楽をつくること」

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑨本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト等の活用
方法	キャラクターやマーク等の活用及び写真の活用

	キャラクターやマーク等の活用	写真の活用
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次で、「音楽の要素をとらえながら」「さまざまな音楽文化ー日本と世界ー」「歌い合わせ聴き深める喜び」の3つの柱と、それに含まれる題材がそれぞれ色分けされているとともにマークで示されている。 ○ 中学校で新しく学習する用語や記号がマークで示され、楽典ページにおいて対応したマークが付けられている。 ○ キャラクターとして、男の子・女の子・先生が登場し、学習のヒント等を吹き出し等で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真(巻頭、巻末を除く)は次のようなものが掲載されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の情景を表した写真 ・作詞者、作曲者の写真 ・楽器及び演奏場面の写真 ・日本の伝統音楽及び諸外国の音楽文化に関わる写真 ・音楽と生活との関わりに関する写真
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目次で、「目標に関わる主な窓口」として、〔共通事項〕に関連するマークが示されている。 ○ 共通教材のマークとその他の歌唱教材と色分けがしてある。 ○ キャラクターとして、男の子・女の子が登場し、学習のヒント等を吹き出し等で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真(巻頭、巻末を除く)は次のようなものが掲載されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の情景を表した写真 ・作詞者、作曲者の写真 ・楽器及び演奏場面の写真 ・日本の伝統音楽及び諸外国の音楽文化に関わる写真

視点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑩鑑賞領域における言語活動の工夫
方法	鑑賞の視点の提示の仕方及びワークシートの工夫とその具体例

		第1学年 鑑賞教材「魔王」の例
教 出	鑑賞の視点の提示の仕方及びワークシートの工夫	第1学年 鑑賞教材「魔王」の例
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑賞の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・活動のポイントとして視点を示している。 ・キャラクターの言葉として吹きだしの中に視点を示している。 ○ ワークシートの工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ノートと鉛筆のイラストを使って書き込みのできる欄を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・声の音域や強弱，ピアノ伴奏のリズムなどの変化を聴き取ろう。 ・物語の進行と曲想の変化とのかかわりを感じ取って鑑賞しよう。 ○ キャラクターの言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・「各登場人物の表現の特徴に着目し，聴き取ったことや感じ取ったことをまとめておきましょう。」 ○ ワークシートの実際 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">聴き比べてみよう</p> <p>同じゲーテの詩を用いた，ドイツの作曲家ヨハン・ライヒャルトの「魔王」と比較して，それぞれのよさを見つけてみよう。</p> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">比較鑑賞曲 魔王 ライヒャルト作曲</p> </div>
教 芸	鑑賞の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動の内容を示す文 <ul style="list-style-type: none"> ・詩の内容をよく理解し，場面の様子を想像しながら聴きましょう。 ・語り手，父，子，魔王の旋律の雰囲気や歌い方の違いを感じ取りながら聴きましょう。 ○ キャラクターの言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・父・子・魔王のそれぞれの旋律を示す3つのマークは父・子・魔王のどれかな？
	ワークシートの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートの実際 <ul style="list-style-type: none"> ● 「おとうさん，おとうさん」と子が呼んでいる部分で (p. 38・39)，音の高さがどう変化しているのか調べて書きましょう。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0; width: 150px;">メモ</div> ● シューベルトがなぜそうしたのか，理由を想像して発表しあいましょう。